

開講日	2026年春期 火曜日 18:30-20:00	講義場所	Zoom配信 + 対面講義(医学部研究棟11階 講義室A)
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座 教授 山田敦朗 教授 永井幸代		
科目概要 および 期待される 成果	【概要】発達障害という疾患は、最近では非常に身近なものになりました。発達障害は子どもだけでなく、おとなになっても続いたり、おとなになって初めて顕在化したりする例も少なくなく、ライフスパン全体を通して、診療を含めた支援が必要です。発達障害臨床では医療にとどまらず、子育て、教育、就労といった日常生活全般に深く関わる支援が求められます。発達障害児者の診療と支援に関わる方々に、いろいろな視点から学べるよう話題を提供します。【期待される成果】発達障害を診療できる医療機関は限られていて、受診まで長い待機期間が発生しています。いろいろな方に発達障害について学んで頂き、現状では限られている診療や支援のすそ野が広がるといえます。		
目標とする 資格	精神科専門医または小児科専門医を持っている医師の方がスキルアップすることを目標とします。子どものこころ専門医、日本児童青年精神医学会の認定医、日本小児精神神経学会の認定医取得にも役立ちます。専門医取得中の医師や、医師以外の保健師、看護師、臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士、教員、スクールカウンセラー、ケースワーカーなど発達にかかる様々な方のスキルアップにもつながります。名古屋市こころの発達診療医研修プログラムの認定証取得要件の一つです。		
サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要
L-1	1	全ライフステージにおける発達障害臨床	令和5年8月1日に名古屋市立大学病院にこころの発達診療研究センターが設立されました。ここでは、全ライフステージにおける発達障害の診療と研究を行っていきます。このセンターの役割をとともに、おとなとの発達障害の臨床を中心にお話しします。
L-2	2	発達障害児の診療	発達障害児の乳幼児、学童などへの診断、検査、家族支援、福祉・民間療育・学校(保育園、幼稚園、小学校など)との連携の流れをお示しし、診療のコツなどを実際の症例から学んだことを中心にお話しします。
L-3	3	発達障害に関わる心理検査	発達障害のアセスメントにおいて、症候的特性を知るための症状評価尺度、認知特性を知る知能検査や発達検査が多く用いられます。そもそも、診察で医師の声掛けに対する子どもの反応そのものが発達特性を知る検査(Examination)といえます。本講義では、各種検査の手技と数値の見方を解説します。
L-4	4	エビデンスに基づく保護者支援	発達障害やその周辺の子どもと保護者の関係性は、子どもの成長・発達に影響を与えます。保護者支援に役立つペアレンツ・トレーニング・2歳から思春期の親子関係の質を高めるCAREプログラムの概要を解説します。
L-5	5	知的障害児・者の支援 知能検査について・ライフステージにそって	知的障害について、知能検査や療育手帳などについての総論と、どのタイミングでどのような支援や福祉サービスを受けることができるのかについて紹介します。発達障害全般にも応用ができます。
L-6	6	発達障害者支援センター	発達障害者支援センターは、発達障害者支援法に基づき、発達障害児・者への支援を総合的に行うことを目的に、都道府県と政令市に設置される機関ですが、地域の状況によって果たす役割は様々です。名古屋市の取り組みについて説明します。
L-7	7	発達障害とゲーム・ネット・スマートデジタル機器とのつきあい方を考える~	発達障害のある人達は、多数派の人に比べて、デジタル機器の使用からの、よい影響や悪い影響も受けやすいと言われています。現代の情報通信技術とうまくつきあっていくための方法について、考えてみたいと思います。
L-8	8	発達を支援する~療育について~	療育とは、発達に課題を抱える子どもが個々の力を最大限に伸ばし、社会的自立を目指すための支援です。本講義では、療育の基本理念、実践的アプローチ、支援者の役割に加え、福祉サービスや医療との連携、愛護手帳(療育手帳)の活用について具体例を交えて解説します。
L-9	9	発達障害児とリハビリテーション	作業療法士、理学療法士、言語聴覚士と多くのリハビリテーション専門職がさまざまなフィールド(医療・福祉・教育など)で発達障害児に関わっています。今回は発達障害児に対するリハビリ専門職の実践について紹介します。
L-10	10	なごや子ども応援委員会について	なごや子ども応援委員会は、常勤のスクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)等の支援職で構成され、学校現場に配置されています。子ども応援委員会の体制と取り組みについてお話しします。
L-11	11	発達障害を持つ子どもたちへの性教育:配慮と実践	発達障害を有する子どもは思いがけない性のトラブルを起こしがちである。日々の診療以外にも街角保健室で出会い少女や少年院などで性の話を子どもたちに伝えるときの伝え方や配慮すべきことなどについてお話しします。
L-12	12	限局性学習症と支援	学習に困難感を抱えていると自己肯定感の低下や学習意欲の低下、不登校に繋がる可能性があり、早期の支援が重要となってきます。本講義ではそれを踏まえて限局性学習症の概要や支援方法についてお話しします。
L-13	13	神経発達症と薬物療法	本講義では、神経発達症の中核症状と併存しやすい疾患(気分症、神経症など)に対する薬物療法について、国内での適応や治療ガイドラインの内容を交えてお話しします。
L-14	14	発達性協調運動症	発達性協調運動症(DDC)および不器用の問題を抱える子は生活の中で多彩な問題を抱えやすく、近年注目を高めようになってきています。本講義では、DDCや不器用の診察や支援について解説します。
L-15	15	不登校と心身症	不登校の子どもは年々と増加し、現在では中学生の約6%、小学生の約1.7%が不登校とされています。不登校の背景には発達障害や心身症が隠れていることが少なくありません。この講義では不登校ならびに心身症の子どもやその保護者の理解や支援に関して概説します。